

# 嶋満神社便り

平成二十六年一月号(第十号)

発行 嶋満神社奉賛会

皆様、あけましておめでとうございます。今年も会員の皆様にとつて幸せな年となりますよう、お祈り申し上げます。

今年も役員さん方の手により、お供えとお飾りを、していただきました。

残念ながら早速に一部は野生の猫の正月のご馳走となり、ありがたくない「お年玉」も残していつてくれました。

正月早々から尾籠な話題で申し訳ありません。

それでも賽銭泥棒よりは文字通り罪がなくてよいかと、あきらめております。

後になりましたが、たくさんの方々にお供え、お賽銭を頂きましてありがとうございます。御礼を申し上げます。



さて今年「午年」ウマドシ。馬のご本尊と言えば地元松尾寺の「馬頭観世音菩薩」が有名ですね。青葉山は古来、日本海を航海する船のよい目印、仏教的にはともかく、民俗学的にはかつては「方角の神様」だったと言われています。そこに後世、馬頭観音が祭られるようになったのは馬が人間の旅と密接に関わってきたからか、あるいはモンゴルの馬頭琴にまつわる伝説が関係しているのか、大変興味深い、と、

故高橋卓郎先生は述べておられました。西国三十三ヶ所の内、日本海を挟んで大陸に面した青葉山だけが馬頭観音さんをお祭りしていることも、その証なのかもしれません。

いつもながら「前フリ」が長くなりました。賢明な読者の方ならもうお分りかかも知れません。そう、我が嶋満神社もかつては要港、「枯木が浦」に面した海の守り神、方角の神様でもあったわけですね。

迷える人も、迷わぬ人も、心新たに神妙なる気持ちで神前にこうべを垂ればきつと、新たな人生の指針を見いだせるはずですね。

今からでも遅くはありませんぞ。まだの方は早く初詣にお越しくださいませ。

正月早々、これまた「怪しげな話か」とお笑いになりませぬよう。人間の営みとは元来そのようなものです。長い年月の間に信仰の対象や方法もいろいろに移ろってきたのでしょう。その悠久の歴史の中にあるものをすべてひっくり返して丸呑みし、今ここにある嶋満神社をお祭りしていると考えたいと思います。

お参りされましたなら、「鈴の緒」が新しくなっているのに気付かれるはずですね。

写真は去る十一月三十日(土)、

奉納者津田様、

奉賛会会長清水様、

北浮島会長黒田様



(嶋満神社担当会長)、そして筆者とで設置、記念撮影時のものです。

「ランコロン」と誠によい鈴の音がして、新しい年の行く手を寿いでくれているようです。

今月も最後までお読みくださり、ありがとうございました。